

食生活調査とその関連因子

東筑紫短大 納身節子 ○磯孝子

目的 青年期の食生活は成人期に移行する年代で食生活を無視できない時期である。男子の栄養に対する無関心、女子の美容などからのあやまつた栄養観をもつなど食生活の面で問題が多い。そこで成人への移行期である大学生男女について、対象をとりまく環境と栄養摂取の調査を行った。

方法 a) 対象 北九州在住の男子学生280人、女子学生302人。

b) 時期 昭和56年6月下旬

環境と関連因子を調査票による自記式によつた。食事記録票より1日分の飲食物摂取量からのエネルギー量の算出。

結果 関連因子として①環境(性別・身長・体重・スポーツの有無)②嗜好(飲酒・喫煙・その他嗜好品の有無)③飲食物摂取量からのエネルギー量を算出し、男子学生と女子学生の比較を行い検討した。